

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL (3404) 7661

E-mail address yo\_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

『家で過ごしたい』をみんなで支える



蛭田さんの隣で、ハイヒールを履いたミツさんが、昔話を語ります。

外苑診療所の訪問診療

前月号で紹介したヘルパーさんは、在宅患者さんにとって介護の  
かなめです。一方、医療のかなめは、訪問診療です。今月号は、在  
宅支援診療所として在宅療養を支えている外苑診療所で、訪問診療  
を担当する医師と看護師取材しました。(編集部)

『元気が戻りました』と訪問先で

「こんにちは、ミツさん！お元気かしら」  
「そうね、なんとか食べてるわねえ」  
益子ミツさんは新宿区在住の94歳、2年前から外苑診療所の訪問診療を利用しています。5年前に慢性硬膜下血腫をした後、一人では外出できなくなりました。認知症も進んだため、いまでは長女の金高みどりさん夫妻が同居して、ミツさんの面倒をみています。  
訪問診療は通常月に2回、車で各家庭に伺っていただきます。益子さんに着くとまず、蛭田看護師が血圧・脈拍・体温などを測り、次に富樫医師が、ミツさんとご家族に、何か変わったことではないか、食事ばかりは好きかわねえ、という話を聞かれます。富樫医師が「やっぱりワルツが好きだわ」と楽しそうに話すと、ミツさんも「でもそんなワルツも、実はつい先日まで脱いで代々木病院に入院していました。」「なんかミツさん、すっかり元に戻ったわね。この前まで社交ダンスをしていたのよ」と言っていると、早速蛭田看護師がミツさんに靴を履かせ、昔話に花が咲きます。「やっぱりワルツが好きだわ」と楽しそうに話すと、ミツさんも「でもそんなワルツも、実はつい先日まで脱いで代々木病院に入院していました。」「なんかミツさん、すっかり元に戻ったわね。この間は話が全然通じなかったものね(笑)」と蛭田看護師。みどりさんも「本当に助かりました、すぐに気づいて入院させてもらえて。やっぱりあのままお家でみて、悪くなっていたら大変でしたから。」と感謝していました。富樫医師によると、お年寄りにはなにか病気になったとき、その症状は、どこが痛い苦しいというストレートなものではなく、会話がかなりあわない、食事がうようやうな形で現れることが多いそうです。「でも、このような様子は、また認知症が進んじやったかな?とか、ちょっと夏ばてかしら?程度に軽く思われ見逃されがち。特にあまりベッドから動かない患者の場合、会話やしぐさに重大なサインが隠されていることがあります。それを

の間は話が全然通じなかったものね(笑)」と蛭田看護師。みどりさんも「本当に助かりました、すぐに気づいて入院させてもらえて。やっぱりあのままお家でみて、悪くなっていたら大変でしたから。」と感謝していました。富樫医師によると、お年寄りにはなにか病気になったとき、その症状は、どこが痛い苦しいというストレートなものではなく、会話がかなりあわない、食事がうようやうな形で現れることが多いそうです。「でも、このような様子は、また認知症が進んじやったかな?とか、ちょっと夏ばてかしら?程度に軽く思われ見逃されがち。特にあまりベッドから動かない患者の場合、会話やしぐさに重大なサインが隠されていることがあります。それを

見落とさないように気をつけています」。難しいものですね。一通り話が落ち着くと「また来ますね!」と元気です。また素敵な笑顔でした。

『代々木病院のバックアップは、訪問診療の強い味方です!』

外苑診療所では、いまま渋谷区・新宿区を中心に、約150人の在宅患者さんの訪問診療をしています。利用するきっかけは様々で、代々木病院からの退院患者さんだけでなく、ケアマネさんや地域包括センターからの紹介も多くあります。なかには近所同士で紹介なんていうのもあって、「嬉しいですね。私たちの日々の活動が、こんなにも患者さんに喜んで頂いているなんて! また頑張らなくちゃ!」(笑) 気の引

ご高齢の方で、自宅に退院することの不安が多いのは、また具合が悪くなったらどうしたらいいの?。介護しきれなくなったらどうしたらいいの?。ということ。また、ご高齢の方が入院しづらくなっている様子もよく耳にします。

お話を聞かせてね!」とお話聞かせてね!」というスタッフを、みどりさんに手をひかれ、玄関先まで見送ってくれたミツさん。とても元気です。また素敵な笑顔でした。

重要。そのような時、検査器材やスタッフが揃った病院がバックにあるのは、本当に助かります。ミツさんのように娘さんや息子さんが一緒に暮らししてくれている家庭は多くはありませぬ。たいていの家庭は、妻または夫がなんとかがやっている老老介護。日々の小さな相談に乗ってくれる訪問診療と、いざという時頼りになる病院、これらふたつの連携は、これからの地域医療にとって、ますます重要になっていくでしょう。ご協力頂いた益子さん・みどりさん、ありがとうございました。取材を受けるなんて「光栄です!」とお洒落をして待ってくれていたミツさん。これからも患者さんたちの喜びの声を伝えていきたいと思ひます。

ご相談は代々木病院医療相談室まで

ご高齢の方で、自宅に退院することの不安が多いのは、また具合が悪くなったらどうしたらいいの?。介護しきれなくなったらどうしたらいいの?。ということ。また、ご高齢の方が入院しづらくなっている様子もよく耳にします。そんな時に、24時間・365日対応可能な外苑診療所の訪問診療をかりつけ医としてすすめています。じ

手術台

今日の不況・格差社会の元は郵政を初めとする小泉構造改革である

重要。そのような時、検査器材やスタッフが揃った病院がバックにあるのは、本当に助かります。ミツさんのように娘さんや息子さんが一緒に暮らししてくれている家庭は多くはありませぬ。たいていの家庭は、妻または夫がなんとかがやっている老老介護。日々の小さな相談に乗ってくれる訪問診療と、いざという時頼りになる病院、これらふたつの連携は、これからの地域医療にとって、ますます重要になっていくでしょう。ご協力頂いた益子さん・みどりさん、ありがとうございました。取材を受けるなんて「光栄です!」とお洒落をして待ってくれていたミツさん。これからも患者さんたちの喜びの声を伝えていきたいと思ひます。